

## 【資料1-1】

開催日：令和2年10月22日

(14:00~15:30)

開催場所：大峰の里(1階検診室)

確認欄	部会長	事務局長	副事務局長

### 第2回 幼年就学期部会報告書

(R2 年度上半期取組状況報告と部会テーマにおける R2 年度上半期実施状況について)

#### ◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	中脇 正人	野市小放課後子ども教室	出
2	○	武田 了子	夜須幼稚園 園長	欠
3	◇	前田 真衣	香南市社会福祉協議会 職員	欠
4	◇	竹倉 美智	主任児童委員	出
5	◇	中元 啓恵	香南市教育委員	出
6	◇	坂下 真人	香南市PTA連絡協議会	出
7	◇	山崎 和佳子	香我美おれんじ保育所 保護者	出
8	◇	山下 英雄	城山高校 校長	出
9	◇	山本 昌伸	香我美小学校 校長	出
10	◇	橋村 志穂	子育てサークル まざあぐうす	出
*	ファシリテーター	坂本 ひとみ	神戸医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科	出

9名

#### ◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	前川 浩文	こども課	出
2	○	三木 守	学校教育課	欠
3	◇	國松 士晃	こども課	出
4	◇	坂本 充子	学校教育課	出
5	◇	内川 武史	生涯学習課	欠
6	◇	朝倉 ちさ	健康対策課	欠
7	◇	高橋 優子	市民保険課	欠
8	◇	恒光 フミ	市民保険課	出
9	◇	杉村 香織	人権課	出
10	◇	松村 千賀子	福祉事務所	出
11	総括	浜田 悦秀	地域支援課	欠
12	//	西岡 亜希子	//	出

7名

#### ☆幼年就学期部会の開催内容（主な資料は事前送付済み）

- 開会
- 自己紹介
- 内容
  1. 8.20 策定委員会で出された意見に対する説明について(資料4)
  2. 令和2年度上半期(4~9月)の取り組み状況報告について(資料3)
  3. 令和3年度新規・拡充事業について(資料2)
  4. 部会テーマにおける令和2年度上半期実施状況について(資料1-1)
  5. その他(今後のスケジュール等)
- 閉会

## 1. 8.20 策定委員会で出された意見に対する説明に対して出された意見

①NO.3「公園の代わりに休耕田を活用すれば整備しなくていい」との意見に対し「行政として安全面は必須条件であり、危険物（ガラスや釘）の排除及びその常時確認などの面から、管理が困難と考えている。」と説明したことについて。

- 現実に即した対応をしていかなければならない。休耕田においても、整備をしなくていいということにはならない。現実的なところできちんとすりあわせをし、だめではなく少しでも時間がかかってでも進んで行けば良いのではないか。
- 少しずつ状況が変わっていくこともあるので、意見を上げていくことは大切だと思う。

## 2. 令和2年度上半期（4～9月）の取り組み状況報告に対して出された意見

- 他県では数字は嫌がって出さないが、香南市はきっちり数字を出して、丁寧に課題や今後に向けての取り組みを出している。苦労もあるだろうが、本当にすごいことだと思う。

## 3. 令和3年度新規・拡充事業に対して出された意見

①『学校教育環境の整備事業に関し、児童生徒1人1台のパソコン端末を有効に活用するための環境整備や学習活動の充実を図るため、教員をサポートするICT支援員の配置を推進する。』

- 1人1台のパソコンということだが、小学校1年生と中学校3年生で違いがあるのか。  
→タブレットスタイルになるノートパソコンで、同じものです(学年で違いはない)。
- 学校に置いておくのか。普通に持ち帰っても壊れにくいものなのか。  
→休校になった場合、家庭学習にも使えるよう目指しているが、まずは授業でしっかりと使えるようになってもらう。小学生が毎日パソコンを持って帰るのは重いだろうし、使い方は今後検討が必要。机からの落下や屋外での使用を考慮した堅牢性のある機器を選定している。
- 自宅にパソコンを持ち帰ったとしても、Wi-Fi環境があるかどうか等、各家庭によって差がでる。基本料金も高く足かせになるしアクセス制限とかも必要。フェイクニュースをそのまま信じたり、勝手な書き込みをしてしまうなど危険な面もあるので、IT整備だけでなく情報の使い方も進めないといけない。見えない課題が多く丁寧な対応が必要。  
→学校教育課としても気がかりな面が多く家庭環境やアクセス制限なども含めて検討している。
- 教職員が有効に使えるかどうか、そのための時間確保も課題。佐賀県は国・企業と連携し、教職員に対して1年間研修をしてから子ども達への教育に移っている。高知県ではそういう仕組みがない中、今後どんな風に進めていけばよいのか、学校現場で何が困っているのか、ニーズは何なのか、課題の整理をしていかないと、使いこなせないのではないかと。学校現場は責任重大。
- 大学ではWi-Fiルーターを30台購入して学生達に貸し出ししている。ネット環境に係る経費も全部大学側が持っている。そうしないと家で勉強ができない。パソコンを持って帰っても使えなければ意味がない。
- 各家庭のネット環境が違う中にタブレットが入っても家庭学習につながらないという現実的な課題をどうするのか。一方で情報が共有できるので、情報の並列化という点ではネットを使う利点はある。将来的には絶対に必要になってくるので明確な着地点を考えながら進めてほしい。例えば密回避のため、ネット環境の整っていない家庭は学校に来ていい、もしくは地区の公民館にネット環境があればそこに集まるとか、焦らずじっくりとやれば良いと思う。
- 家庭ではオンライン授業か。発言無しの方通行で配信される授業なのか。双方向の授業なら兄弟同部屋での発表や発言は難しいと思う。小学低学年生の子にパソコンを持たせて、自分たちだけでやりなさいという時間を持たせたくない。本当に勉強をしているのかも怪しく、フィルター

をかけてもインターネットの情報をきちんと受け取れるとも思えない。あえてスマホや携帯を持たせていないのに、わざわざ学校から持ちこむのも、ちょっとどうかと思う。

→国が目指しているのは（緊急時における家庭での学習環境としての）オンライン授業。家庭側で兄弟が同時に別授業を受信できるのか、学校側も全学年に一気に配信できるのか、まだまだこれからの課題。

- 授業配信の仕方は、リアルタイム配信で双方向でやるのもあれば、一方向のものもある。それを全部録画してユーチューブにアップしているのだから、見られなかった子だけじゃなく、復習もできる。大学授業では対面と同じようにチャットでやりとりし、いろんな意見がアップされている。微妙なのは、大学を楽しみに一生懸命登校していた子がオンライン授業になっておもしろくなくて不登校になったり、逆に引きこもりがちだった子が授業を全部受けるようになったりした。
- 文科省も ICT を活用した授業事例を各都道府県から集めている状況。学習指導要領の変革時で、県立国際中高等学校では前で教師が授業をするのではなく、グループで席を替わりながら自分たちで調べるといような自由な授業をやっているが、できる子とできない子がいる。今の学習指導要領に則った ICT 活用の流れと、特別支援教育の視点で、板書して書き写す時間を少なくし、画像や音声で分かりやすく説明して興味関心を持たせる、という二つの側面がある。
- 小学生に関しては ICT 教育、デジタル媒体を使ってどういう学びをするのか、軸足がぶれないようにしないとけない。ICT を活用するだけの授業になってはいけない。しっかりと見据えても模索していかないと、逆に教育の質が落ちる可能性もある。

#### 4. 部会テーマにおける令和 2 年度上半期実施状況に対して出された意見

（資料は当日一部修正。児童クラブ支援員募集チラシと公園一覧を当日配布。）

##### ① 保育等の受入態勢

- KCTV の件ですが、城山高校としても積極的に動こうということで、既に KCTV に連絡をとり話をした。費用もかからない、連絡があれば取材に来る、保育に焦点をあてるのであれば月 1 回取材するとか内容を KCTV と協議していく。
- 放課後児童クラブの支援員の件ですが、KCTV の『香南っ子映像くらぶ』で「放課後児童クラブの支援員等のお手伝いをする子ども達」として、子どもを通して支援員やこども食堂の運営の姿を見せるのも一つのやり方。お便りを見ない保護者もいるので、子ども達が何かやっているというのには食いつきがいい。

\*募集に関しては今後もあらゆる方策を考えて実行していく。

##### ② 外国人とのコミュニケーション

『この内容は範囲が広く部会としてどこまで考えるべきか。市役所内でも課題がわからないと対応しづらい状況であるため、本部会の取り組み内容から外し、別途、関係課を集めて対応していく方が良いのではないかと。今後も幼年就学期部会の取り組みとしていくのかお諮りいただきたい。』

- 赤岡の教育懇談会で、吉川にバングラデシュの方がたくさん来ていて、コミュニケーションが取れず困っているらしいと聞いた。学校に関しては、教育委員会を中心に、ALT をつける方向（四国の他 3 県では ALT をつけている）で話しをしてもらいたい。
- 子ども達だけの問題ではなく、当部会だけで進めていくには幅がありすぎる、反対意見がないのであれば、教育委員会とか市でやってもらう方向でいってはどうか。意見としてあげていくことはできるので、また子ども達の問題がでてくればこの部会で話し合う。
- 外国人は異文化なので広く深くということもあり難しいと思うので、行政にお任せした方がいい

い。文化の違いも多く、いろんな場面でトラブルが増えているので気をつけないといけない。

**\* 幼年就学期部会の取り組み内容から外すことを決定。別途、関係課で協議していく。**

(部会後の事務局会にて：まずは関係課が集まり、言語が通じない場合の相談対応の仕方やその補完機関への連絡方法などの確認、各関係課における対応困難事例の把握・共有を行う予定。)

### ③ 公園の整備・周知

・旧赤岡保育所跡地の活用を考えていただきたい。不審者が侵入する懸念があるので、いっそ更地にした方がいいのでは。目につきにくい場所でもあり、何か事件や事故が起こる前に早急に対応したほうがいい。

→浸水地域であり活用の目処は立っていない。売却できればと考えているが、こども課では伐採や除草など維持管理だけで終わっている状況。建物内に入れられないよう鍵はかけている。

・小さな公園は高齢化なのか、子どもが遊ばないのか草ぼうぼうのところがある。高知市の大規模公園は業者が入っているが、他は年1回の草刈り程度。香南市はどんな状況か。

→必要があれば地区の方が管理しているところもある。避難場所として防災倉庫を置くなどして活用しているところは、自主防災組織が整備して維持管理しているところもある。苦情があれば建設課で除草している状況だが、全部を建設課で管理するのは難しい面もある。約180公園あるが大きさも様々で、駐車場がない、遊具等劣化している問題もあり、事務局で一度巡って見て、ガイドブックやパンフレットに掲載できそうな場所をピックアップしていきたい。

・団地の公園は自治会等がきちんと手入れをして守っているところもあるので、それをガイドブックで紹介し他の地区の方が利用するというのは大丈夫なのか。市の公園でもその地区が大事にしてくれたのに、ある日突然知らない人達が来て迷惑をかけないように気をつけていただきたい。

**\* 駐車場、水道、遊具、東屋等の情報から候補地を実地調査し、パンフ掲載する公園を選定していく。冊子改定時に盛り込むほか、市HPにもリンクを張れるように準備していく。**

### ④ 朝食の摂取

・講演で、朝食を摂らないことで生涯年収にこれだけの差が出るなど悪影響面にスポットを当てた方がインパクトが強く心や記憶に残りやすいと聞いた。「朝、おかずを作る暇なんかない」なら、晩ご飯の残りを出すだけで十分1品になる、何でもいいので1品でも食べる習慣をつけることから広げていった方がいいと言っていた。告知されているとは思いますがしつこく言っていくしかない。

・「私は食べない派だったから子どもも要らない」という方もいるが、保育園や低学年の子は親が食べることを促すから食べるもんだと思って大きくなるんだと思う。「食べないとまずいんだよ」と保護者の意識を変えていくことを考えた方がいい。食べることに慣れてきた子ども達は、次は何を食べたら身体に良いのかを考える、その子達が中学・高校生になれば自分で作って食べるようになる。朝食の摂取については、保育所などの小さい段階から保護者に啓発していくことが大事。

・「朝ご飯を食べなくても大丈夫」「食べない方が身体にいい」という情報も出ていて、極端な例を言えば「1日1食でもいい」と芸能人が言ったりする。その方は高齢なのでいいかもしれないが、子ども達はこれから成長しないといけないのに、テレビでそういう情報が流れるとそれを見て子どももいいんだと親が誤解する。子どもと親は身体が違うのに。子どもの成長にとって大事なんだという事を伝えていかないといけない。「子どもが朝ご飯を食べなくてもいい」という情報は出ていないので、そこらへんをきちんと伝えていかないといけない。

**\* 啓発手段のほか、その見せ方や伝え方にも工夫が必要なので、今後も考えていく。**

成年熟年期部会開催日：令和2年10月29日（木）

## 第2回 成年熟年期部会報告書

（R2年度上半期の取組状況及びR3年度新規・拡充事業について）

## ◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ振興協議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	出
3		大野 英明	山北地区まちづくり協議会	出
4		村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5		尾崎 俊夫	社会教育委員	欠
6		山中 節子	香南市図書館協議会	出
7		白石 令子	香南市社会福祉協議会	出
8		大庭 静子	食生活改善推進協議会	欠
9		清水すみ子	香南市健康推進員協議会 香我美支部	出
10		西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	出

8名

## ◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	猪原 加江	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3		岩佐 和子	〃	出
4		山崎 正博	生涯学習課	出
5		岡田 真樹	〃	出
6		立仙 美鈴	〃	出
7		安岡 愛可	福祉事務所	欠
8		田中 彰裕	人権課	出
9		寺内 潤	環境対策課	出
10		岩田 由子	地域支援課	出
11		小川 哲弘	〃	出
12		西岡亜希子	〃	出

商工観光課 岡林 栄一 田中 菜生 出席

13名

## ☆成年熟年期部会の開催内容

- ・開 会
- ・議題内容

## 1.令和2年度 実施状況について

## 2.部会第2のテーマ「移住促進事業」について移住者からの報告

「移住してみたの感想やまちに期待すること」

YASU 海の駅クラブ職員

田中 愉之さん

地域おこし協力隊（香南市役所職員）

野村 英司さん

## ○意見交換

## 3.令和2年度上半期 KPI 進捗状況

## 4.令和3年度新規・拡充事業について

## 5.その他

## ①継続事業、ウォーキング&amp;サイクリングで健康増進の進捗状況報告

パンフレット作成状況

三世代交流サイクリング大会など複数の課共同事業について報告

## ②第1回策定委員会報告書及び議事録についてのご意見、ご質問について

・閉 会

1. 令和2年度 実施状況について【成年熟年期部会】

今度の取組みと課題について報告

部会継続テーマ「ウォーキング&サイクリングで健康増進」

～いい汗かいて健康生活」の進捗状況報告

- ① 11月29日生涯学習課と商工観光課との共同事業として「三世代交流サイクリング大会」開催について、チラシの内容を報告
- ② 各課で行っているウォーキング、サイクリング事業が一覧で分かるパンフレットについての進捗状況報告（2月予定）
- ③ 第3のテーマ「人権啓発」について、1月開催する事業内容（案）を報告  
質問等なし

2. 部会第2のテーマ「移住促進事業」について移住者からの報告

題名「移住してみたの感想やまちに期待すること」と事前に委員から頂いた質問内容について  
2名の移住者から報告

（地域おこし協力隊 野村英司さん）

【まちの感想】

香南市は、空港から近く、市内にも車で30分、便利であり、田舎過ぎず、都会からきても馴染みやすい。人付き合いも、プライバシーを保ちながらある程度人との距離を保って生活できている。県外移住者に対する市からの20万円の家の改修補助金を利用して、市内の古民家を借りている。趣味程度の畑をしたかったので、実現できて楽しい。都会では、農地も高額だが、香南市ではただ同然であり、都会では考えられない、本当に贅沢だと思う。

違和感といえば、ゴミ出しについて、燃えるごみは週2回だが、缶は月1回だったこと。

収入面は都会より低い。家賃は安い、生活費である食費や車の維持費等に経費が掛かってしまう。

【まちに期待すること】

自然いっぱいを売りにしている所がたくさんあるが、都会以外はどこも自然いっぱい、まだそのことを売りにしている所は努力が足りないのでは？

1点目は、しっかりしたビジョンをもつこと（例：徳島県上勝町）

香南市は充分魅力的だが、ビジョンをもてばもっとPRしやすいのではないかな。

2点目は、時代に柔軟に対応する姿勢（例：デジタル化）

行政のあり方は変わってきている。思い切ったことを行政だけですることは難しいと感じた。自治体だけでは難しいので、民間や住民と力を合わせて魅力的なまちにしてもらいたい。

(YASU 海の駅クラブ 田中愉之さん)

【まちの感想】

香南市の魅力は程よい田舎。移住施策は全国でやっているの、それだけでは人は来ない。

夜須保育園は浸水区域にある。防災訓練に参加したが、裏山への避難で、テントも何もなし。先生は水を担いで避難している。移住先として人に勧められる状況ではない。

東日本大震災から10年経つのに、対応が遅いと感じる。

野市に人口が集中しているのは、防災の面もあるのではないかと感じる。

【まちに期待すること】

移住施策は全国どこでもやっている。今後は国として多様性を言い始めている。例えば外国人労働者や障害のある人を対象とするなどがキーワードではないか？

次のステップとして、独身の時と違い家庭を持つと、子どもの教育や安全が必要となる。案として全国で実施していないこととして、多様性や障害者にやさしいまち日本一や子育てにやさしいまち日本一など独自性が必要と感じる。

行政だけで知恵は出ないので、民間行政関係なく幅広く意見を聞き吸収する必要がある。

【意見交換】

※委員から多くの質問が出され、主な内容とそれに対する回答について記載します。

○市役所の仕事で自治体の努力が足りない、もっといいアイデアがあるのではないかと感じたという意見があったが、そのアイデアとは

⇒(野村さん) 今後はデジタル化がどんどん進んでいく。

例えば、市役所が平日のみで5時15分に終業したら、仕事をしている人は利用しづらい。オンラインで手続きなどができたらよいと思う。

○地域とのふれあいの状況はどうか？

⇒(田中さん) 消防団、自治会の総代、まちづくり協議会などにも参加している。自分の顔や存在を覚えてもらえるようにしている。

○なぜ香南市を選んだのか？

⇒(野村さん) 何年も前から都会を出て地方に行きたいと思ったが、どこでもよかった。たまたま高知市に友達があり、香南市役所で映像関係の仕事を募集していたので、これでいいかと決めた。

情報により友達が紹介してくれた。香南市のここがよかったというわけではない。

⇒(田中さん) 海で遊ぶのが好きでたまたま施設も家もあった。情報はなかったが、住んでみてよかったという感覚。

○文化的な施設面ではどうか？

⇒(野村さん) 赤岡は個性がありおもしろい町と思う。文化施設は高知市に行くので正直なところあまり期待はしていない。

⇒(田中さん) 将来的にはあるかもしれないが、年齢的にまだ興味のない年代かもしれない。

○移住後、本当に困ったことはないか？

⇒(田中さん) 地元の人あまり変化を好まない。外からきて良くしようと思って案があっても、実行するのは地元の人である。

○岸本の市営住宅が5~6年も空き家のままである。

入りたいという人がいたので、市営住宅に入れなかったか相談したがだめだった。退職した

ら香南市の岸本に住みたいという希望があるが、受け入れはできないか？

⇒（地域支援課）移住対策で住むところは大切であり、市営住宅の活用について、以前住宅管財課でヒヤリングをした。結果、要件としては、まずは香南市に住んでいる人、次に、香南市のどこかに勤めていることが条件。現時点では要件の変更の予定はない。ただ、この意見については移住施策を始めた当初からお試し住宅に使えないかなどアプローチをしている。政策に基づいた施設なので、変更できないかもしれないが、担当課にはまた協議を試みる。

#### ○委員からの提言

結婚により移住した時、閉鎖的な印象を受けた。すぐに噂になり1週間くらいで〇〇家の嫁と定着した。気に入ったのは、飛行場が近いこと。飛行機を使えば移住者もふるさとにいつでも帰れるという強みがある。都会でも空地やベランダを利用して家庭菜園をしている人もおり、生涯のことではないため、移住には結びつかないかもしれない。

日本全国どこも移住施策をしている時代。移住から施策をシフトする時期ではないか？ 転出者の理由を掘り下げ、市として転出者を食い止める努力を求められているのではないかと思う。

今住んでいる人が不満はあっても満足の多い生活をしていたら、うらやましがるといえる人があると思う。そんな人が香南市の空き家に生涯のすみかを見つけたいと思うようになれば万々歳ではないか。

#### 【川田部会長】

田中さんから防災問題などで厳しい指摘をいただいた。

2人とも何かアピールできるビジョンの必要性を述べられ、ビジョンを持つことで、何か変えていける、それが生活と結びつき、産業の発展、住民の安全につながるものになるという印象を受けた。

移住対策よりも転出を防ぐ、住みやすい生活にすることの必要性という意見もいただいた。委員からも多くの質問等を頂き、この内容がまちの移住促進事業に反映できるように検証・検討して頂きたいと思う。

#### 【ファシリテータ村上先生】

子どもを持つ家族のハードルの質問が気になったが、田中さんの意見で理解できた。

野村さんの意見の中の食料品や車の維持費が高いことに同感している。

神奈川で豚の農家さんが豚を売るためにバーベキューのイベントで人を集めながら通販などもしている例がある。香南市でイベントをしたら、アクセスが良いので大阪や東京など都会からは来てくれると思う。

香南の魅力と産業をどうアピールするか、イベント化などでふるさと納税の商品の価値も上がることも考えられる。



### 3.令和2年度上半期 KPI 進捗状況

上半期の進捗状況について、事務局報告

全般的な状況として、新型コロナウイルスの発生に伴い、生涯学習課では9月からの事業開始、健康対策課の各健診業務についても、人数制限を行いながら実施しているなど、数値の現状を報告し、今後については、感染予防対策を実施しながら適宜、実施していくと報告した。

○45番：地域おこし協力隊の任期満了後の定住者数について、目標値は任期満了の人の数と思うが、今まで何人の人が定住したか？

⇒（地域支援課）今年度初めて9月末に卒業し、10月に定住した。12月に1名卒業予定。その者も今のところ香南市での定住を予定している。

○採用の人数は市の予算で限定されるのか？

⇒（地域支援課長）各自治体により雇用の仕方が異なる。香南市はミッション型。欲しい人材の要望について毎年9月頃に各課から吸い上げ、募集をかけているので、毎年異なる。

○40番：障害者虐待相談対応・支援について、『障害者虐待に対する窓口「香南市障害者虐待防止センター」を設置。』と記載されているが、いつ設置されたか？広報のチラシなどはあったか？⇒（福祉事務所後日回答）平成24年10月に設置し、その月の広報で周知をした。また、毎年12月の障害者週間に防止法の内容と問い合わせ先を掲載していたが、ここ2年は広報等の周知ができていないので今年度は掲載する。

○空き家は、アパートの空き部屋も、一戸建てのものもあるが、空き家の定義は？

⇒（地域支援課長）香南市の空き家バンクは、個人が所有する営業目的でなく自分が住むために建てた家で、住まなくなるであろう家または住まなくなった家と定義している。

アパートや営業目的の家は除いている。住めなくなった家でも、古民家再生など、貸すことはできなくても売ることができるものもある。不動産屋が取り扱ってくれるものであればかまわない。土砂災害などの危険地帯などでお断りする場合はあるが、長い間住んでいないなどでも不動産屋がかまわなければ大丈夫である。

### 4.令和3年度新規・拡充事業について（事務局報告）

（地域支援課長添付資料説明）

移住に関しては、「こうなんでくらす」の冊子裏面にも紹介している移住だけに特化したホームページで「香南住む〜ず」（H28年度開設）の一部改修を予定している。

○地域おこし協力隊の起業については、香南市に住んで他の市町村で起業をしても補助対象になるか？

⇒（地域支援課）香南市で住んで香南市で起業した場合が対象となる。設立当初の補助金を検討しているので、設立当初は香南市在住で香南市での起業を対象とする。

## 5.その他（事務局報告）

①継続事業、ウォーキング&サイクリングで健康増進の進捗状況報告

②第1回策定委員会報告書及び議事録について

- ・香南市のPR動画とTVの放映計画について（商工観光課より資料について補足説明）

質問等なし

### 【最後の感想】

移住者田中さんから、地域の助け合いボランティアについてのご意見

○ボランティアをして人から求められ頼られることがうれしい。歳をとると人から求められることがいい励みになる。そのへんも数値に入れると良いと思うがどうか？

⇒（生涯学習課）人材バンクでボランティアを登録制でおこなっているが、登録となるとなかなか難しい。助け合いボランティアなら地域づくりの一環として、お手伝いをしあうほうがスムーズにいくのかなと感じる。

⇒（田中さん）行政のやり方は硬い。行政にできないことは民間に頼ってはどうかと思う。

⇒（川田部会長）無償ボランティアは難しく、有償ならできるかということそうでもない。助け合えるシステムは必要だと思う。

⇒（委員）まちづくり協議会で子ども応援隊として本の読み聞かせや昔遊び、食育、保育所の山の1日先生などを行っている。子ども応援隊は小学校も呼びかけをしている。

社会福祉協議会でも多くのボランティア事業を実施しており、シルバー人材センターでは、庭木の剪定などを安価にしてくれる。有償無償にかかわらず、手を差し伸べてくれる機関は増えていると思う。ただ、横のつながりができていなくて市民全体にいきわたることができていない。そこを行政にもしてもらいたい。

⇒（会長）フリーランスは便利やさんではあるが、社会保障の問題など難しい面もある。

（ファシリテータ村上さん）

ボランティアとして大学生も参画している。

防災運動会では防災を楽しく学ぼうということで県や消防とで、サイバーボランティアとしてネット問題を学生が中心になり高知県警と共同で香美市の小学校で講演を実施したり、IT促進支援としてプログラミングの指導に行ったりしている。ニーズについて学生はうまく聞き出しながら地元公民館と協力しながら行っている。大学生を活用してほしい。

### 次回、協議内容及び日程について

第3のテーマ人権啓発について協議を行う。

日程は、1月予定

## 【資料1-3】

高齢期部会 開催日：令和2年10月29日（木）

### 第2回 高齢期部会報告書

（R2年度上半期の取組状況及びR3年度新規・拡充事業について）

部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	小松 健一	香南市社会福祉協議会 会長	出
2	○	福井 清仁	民生児童委員会 代表	欠
3		大谷 修二	高齢者クラブ 代表	出
4		矢野 由美子	第2号被保険者代表	出
5		岡本 八重子	サービス利用者家族代表	出
6		福永 康夫	夜須町民生児童委員協議会	出
7		近森 孝章	シルバー人材センター	欠
8		濱崎 勲	香美人権擁護委員協議会	出

6名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	宮崎 結城	高齢者介護課	出
2	○	西内 淳	福祉事務所	出
3	◇	寺内 潤	環境対策課	出
4	◇	濱田 知佐	人権課	出
5	◇	田中 一也	生涯学習課	出
6	◇	福井 智歩	健康対策課	欠
7	◇	浜田 悦秀	地域支援課	出
8	◇	西岡 亜希子	地域支援課	出
9	◇	中城 由美	高齢者介護課	出
10		岡田 千裕	高齢者介護課	出

9名

#### ☆高齢期部会の開催内容

- ・開 会
- ・内 容
  1. 第1回部会の振り返り
  2. 令和2年度上半期の取り組み状況報告
    - (1) 上半期の数値目標・進捗状況
    - (2) 令和2年度実施状況について
  3. 令和2年度の検討事項
    - (1) 医療送迎サービス
    - (2) 高齢者のごみ出し支援
  4. 令和3年度に向けた取り組みについて
- ・閉 会

## 1. 第1回部会の振り返り

意見なし

## 2. 令和2年度上半期の取り組み状況報告

### (1) 上半期の数値目標・進捗状況

○国も新型コロナに対する施策をしているが、各課の状況はどのようになっているか。高齢者介護課には、コロナの影響で不活発病の心配があり、集まりに来ない人にはアプローチをしてほしい。

⇒(生涯学習課)スポーツは屋内は人数制限を設けている。町民運動会は中止、今後の風揚げは検討中。サッカー大会は、まだコロナも出ているので、保護者は敷地内に入らず、子どもだけとしている。やりながら検討し、代替案も考えている。

⇒(高齢者介護課)高齢者介護課での介護予防事業等は6月から事業を再開した。

⇒(ファシリテーター)コロナ対策ができていれば事業は実施できると思う。内容を変えなくてもできるのではないか。コロナは今後も続くので、工夫して実施していくようにしなければと思う。

○高齢者クラブは芸能大会やサークル活動も中止で、目標がなくなったと言っている。ふれあいセンターや体育館も飲食中止で楽しみもない。今後も続くことではあるが、代替案をどのように考えればいいのかわからない。対策をみつけれられない。

### (2) 令和2年度実施状況

#### 移動支援(報告)

○「住民主体の移動支援の受け皿づくり事業」は、10月17日に運転者講習を実施し12名の参加があった。また、デイサービス事業所むらじが、8月から赤岡町のいきいきクラブ参加者の送迎を開始しており、11月から夜須町上夜須の自主体操グループの送迎も開始する。

### (3) 検討事項

#### ①医療機関送迎サービス

「医療機関送迎サービス事業」について、現行では要支援1・2の方は自身で移動ができる方もいるため対象としていない。前回の部会の意見により今後対象に入れる必要はないのか現状把握を行い、介護予防プランセンターケアマネージャーを対象に、要支援1・2の方のタクシー利用状況の調査を実施し報告。

○（高齢者介護課）要支援1・2は自分で動くことができると思うが、アンケートの結果からも様々な理由でタクシーを利用していることがわかった。令和元年に要介護1まで増やしたが、利用者は多くなかった。

⇒（委員）アンケート結果では医療機関へ行っている人のほとんどはタクシーを利用している。要介護1に対象を広げても利用者は増えないということは、方法を考えないといけないのではないか。

⇒（委員）コロナで医療機関の送迎バスも動いていないので、余計にタクシー利用が多くなっているのではないか。

⇒（委員）定期受診が対象の要件であれば、私の考えでは意味がない。タクシーチケットなどが使い勝手がよい。受診のついでに買い物もしたい。外出は1日1回でまとめたい。

○（ファシリテーター）病院に行くためだけのものなら、往復でなくてもいいのでは？片道だけでよいのであれば、使い勝手はどうか。

医療機関送迎サービスは、自宅から医療機関へ通院する場合の送迎代金の一部を助成するもので、利用は月1回、市内は全額助成、南国市・香美市等は3,000円、高知市は5,000円までを助成する。タクシー事業所は、往復利用するしないにかかわらず、限度額を超えた分を本人から徴収している。

⇒（委員）ケアマネの説明の仕方ではないか。片道だけでもよい、帰りは自由でいいとか。「行きだけでも使ったら？」という説明をすれば利用する人もいないのではないか。

## ②ゴミ出し支援

「高齢者のゴミ出しに困っている」というヘルパー等現場の声があり、高齢者介護課と環境対策課で南国市で実施している個別回収の方法について聞き取りを実施。また、高齢者介護課で訪問介護（ヘルパー）利用者と介護予防プランセンターに要支援1・2の方にゴミ出し方法を調査し報告。

○サービス利用について、ごみステーションのふたが重く開けられないことが理由でも大丈夫か。金属の檻のようなものが多く重い。

⇒（環境対策課）（ごみステーションは）金属製のもの、所によってはネットをかぶせているところもある。上限10万円で補助を出している。軽いふたの物も出ており、改良の補助金も出せる。

○シルバーとの協議事項はどのようになったか。

⇒（高齢者介護課）初めてのことであり、会員が受けてくれるのか。世帯数により日数・時間も変わってくる。ヘルバーステーション等に調査を依頼しているので、需要を特定して依頼してみる。

⇒（高齢者介護課）100円出して近所の人に回収してもらっている人もおり、見守りにもなっている。シルバー人材センターの関わりで家族が疎遠にならないか。そのために県外から帰ってきている人もいる。何でもすることによる弊害もでてくるのではないか。町内会で支援する動きはない。

⇒（委員）（シルバーとの検討について）ゴミの収集場まで運んで行かなくても、8時までの規定はあるがごみステーションまで持って行く方がよい。できる方法を考えてほしい。シルバーが実施する場合、回収・運搬の許可があると思う。また利用者から料金をもらってはいけないことになっていると思うが…。

⇒（環境対策課）市の事業として雇ってするのであればよい。

### 3. 令和3年度に向けての取り組み

この部会では、移動支援・生活支援をテーマとしてきた。引き続き検討しては思う。

○（ファシリテーター）困った人がいる場合の支援について、行政か地域の互助か、どちらがするのかを考えていくことも必要ではないか。地域のつながりをよりサポートすることで考えるとよいのではないか。地域の状況により考えていく。

○（委員）高齢者のスポーツについて、参加費300円でやっていたが、参加者が減ると高くしないと赤字になる。（大会に参加時）事故の心配があり個人で乗せていくより、バスで送迎している所（市町村）もある。県の大会はバスを行政で出さないと団体の便乗は難しい。グランドゴルフについて、県のフェスティバルは市が補填している。趣味でしているもの以外、県主催での大きい大会は市で支援してほしい。

⇒（委員）高齢者のイベントの送迎については以前も出ていたが、一旦整理してはどうか。

### （次回）2月

○高齢者スポーツ大会の参加支援について

スポーツの種類と送迎の状況、市の考え方などを整理してみる。（生涯学習課）